



文部科学省

人的交流・科学技術分野 における 日米協力について

令和7年12月18日（木）



1. 日米間での留学生交流については、米国から日本への受入れが約4,000名（2024年5月1日時点）、米国への日本からの派遣が年間約28,000名（2023年度中）となっており、他のG7諸国と比較すると1位。

		米国	フランス	イギリス	ドイツ	イタリア	カナダ
受入れ人数*1 (うち国費留学生)		3,918名 (153名)	2,012名 (38名)	953名 (35名)	1,215名 (36名)	820名 (42名)	598名 (34名)
派遣	主に中短期 ²	13,517名	3,022名	5,037名	2,723名	1,122名	7,621名
	主に長期	13,959名 ³	904名 ⁴	2,957名 ⁴	1,819名 ⁴	170名 ⁴	1,734名 ⁴

(出典)

*1 日本学生支援機構「2024(令和6)年度外国人留学生在籍状況調査」(2024年5月1日時点)、*2 日本学生支援機構「2023(令和5)年度日本人学生留学状況調査」(2023年度中)、*3 Institute of International Education「Open Doors」(2023年中)、*4 OECD「Education at a Glance」(2022年中) ※派遣人数については、「主に中短期」と「主に長期」で一部重複している場合がある。

2. 日本学生支援機構やフルブライト・プログラムにおいて、理系分野の日本人学生の送り出し支援を新たに開始。

- ・日本学生支援機構: **海外留学支援制度(大学院学位取得型)**において、2025年度に、**米国を含む海外トップ大学の理系大学院博士課程に留学する特別枠を新設**し、全体で10名を採用。(うち米国で7名採用。)
- ・**フルブライト・プログラム奨学金**: 2025年度より、日本人奨学生に対して、**科学・技術・工学・数学(STEM)分野への奨学金支給を50年ぶりに再開**、授業料上限を撤廃。STEM分野では、2025年度は7名を派遣。(フルブライト全体では、2025年度は40名を受け入れ、30名を派遣。)

3. 2024年度4月の日米首脳会談において設立された「ミネタ・アンバサダー・プログラム(MAP)」教育交流基金により、留学生交流支援を新たに開始。

- ・**「ミネタ・アンバサダー・プログラム(MAP)」教育交流基金**: 日米の高校生・大学生のため、2024年度に日米の民間企業からの寄付により設立(1,200万ドル)。2024~2025年は12名を受け入れ、13名を派遣。2025~2026年は35名を受け入れ、35名を派遣。



米国大統領府科学技術政策局 (OSTP) 局長と文部科学大臣の会談 日米間の技術繁栄ディールについての協力に関する覚書

- ◆ 2025年4月3日、あべ文部科学大臣(当時)が マイケル・クラツィオスOSTP局長と電話会談を実施。
 - 2025年2月の日米首脳会談を踏まえ、AI、量子、半導体、宇宙分野等の重要技術分野において、共同研究や研究者交流等を通じて日米間の協力を推進していくことを確認。
- ◆ 2025年10月28日、日米首脳会談での来日を機に、松本文部科学大臣とマイケル・クラツィオスOSTP局長との会談を実施。(於:文部科学省)
 - 同日に内閣府とOSTP間で署名された「[日米間の技術繁栄ディールについての協力に関する覚書](#)」を契機とし、重要分野における両国間での緊密な協力促進、特にAI for Scienceに係る国際連携強化の重要性等について意見交換、協力の方向性を確認。



【協力覚書に含まれる協力分野】

- AI、研究セキュリティ、Beyond 5G/6G、医薬品・バイオサプライチェーン、量子、フュージョンエネルギー、宇宙

各分野での協力状況

▶ AI、量子

- ・ 文科省-米国エネルギー省 (DOE) 間で「AI for Science」に係る日米連携枠組みを構築、理化学研究所とアルゴンヌ国立研究所が連携。

▶ 宇宙

- ・ ISS計画、アルテミス計画で協力継続。
- ・ 2025年10月に新型補給機 (HTV-X) 1号機の打上げ成功。
- ・ 2024年4月に文科省-NASA間で署名された実施取決めにおいて、日本は米国に有人と圧ローバの提供、米国は日本人宇宙飛行士による月面着陸機会の2回提供を規定。

▶ 医薬品・バイオサプライチェーン

- ・ AMED: 日米医学協力計画の下、「汎太平洋新興再興感染症国際会議 (EID会議) を米国国立衛生研究所 (NIH) と共同で開催。(2025年3月、東京)
- ・ JST : 先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE) で米国NSF Global Centersとバイオ分野共同研究、3課題を現在支援中。(2024 - 2030年)

▶ フュージョンエネルギー

- ・ ITER計画で協力継続。
- ・ 日欧共同プロジェクトのJT-60SAに米国プリンストン・プラズマ物理研究所 (PPPL) 及び、ジェネラル・アトムクス社 (GA) が参画。

▶ 研究セキュリティ

- ・ 米国国土安全保障省科学技術局 (DHS S&T) との科学技術協力に係るJSOIに文科省が署名。
- ・ JST主催の研究セキュリティシンポジウムにおいて米国NSFから、Dr. Rebecca Keiser氏 (研究セキュリティ戦略・政策最高責任者) が登壇。(2025年3月、東京・オンライン)